2011/06/06　　創刊号

Ecological Times

前書き

皆さんこんにちは！さて、今回の記事は環境プロジェクトの紹介です！え？“環境プロジェクト”ってなに？という方のためにまず簡単に環境プロジェクトについて説明しますね。

環境プロジェクトとは環境学部の授業の１つで、選択科目という位置づけです。この授業は文字通り生徒が環境を主として様々な事柄に関して自分たちでやることを決め、プロジェクトとして運営していくというものです。生徒の自主性を尊重する実に自由度の高い授業となっています。　かく言うこの新聞を製作しているEcological Times Project（略してエコタイ）もこの環境プロジェクトの一つとなっております。他にも新キャンパスについて話し合っているプロジェクトや、キャンドルナイトというお馴染みのイベントを企画・運営しているプロジェクトなど、その活動は多岐に渡ります。毎年新たなプロジェクトが設立され、一定のイベント達成をもって解散するものもあれば、リーダーを下の学年に引き継いで何年にも渡って活動しているプロジェクトもあります。そういった意味でも非常に自由度の高い授業だと言えるでしょう。

環境学部の方は、この記事を参考に自分の興味のあるプロジェクトに是非参加してみて下さい。１年生は履修することはできませんが、協力は可能ですし、先輩方との繋がりはきっと良い経験になるはずです。また、他学部の方には「環境学部にはそんな授業があるんだな～」と興味をもって頂けると幸いです。キャンドルナイトなど、学部に関係なく参加できるものもありますので、これを機会に多くの武蔵野大学生が環境プロジェクトに関心を向けてくれることを願っています。

新キャンパス

三井：さあ、最初にご紹介するプロジェクトは今年最注目、最大規模を誇る【新キャンパスプロジェクト】です！早速リーダーの方に自己紹介して頂きましょう。こんにちは！

土方：こんにちは。新キャンパス（＊１）プロジェクトのリーダー土方将平です。え～一応リーダーということになって
いますが、４人の２年生と一緒にまとめていますので

新キャンパスのメンバーさん　中央奥青いシャツが土方さん

たいしたことはやっていませんよ？

三井：またまたご謙遜を。基本データは下表のような感じですか？

リーダー	土方将平（環境学部２年） Ｇメール：s1035031@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	約２４人（内１５人が２年）
活動目的	有明に建設中の新キャンパスをより環境に配慮したものにする
活動内容	・新キャンパスをどのようなものにするか話し合う ・協力企業を探し、検討する

土方：そうですね。加えるなら受け身だけでなく、環境のことを新キャンパスから発信できるような、そんなのにしたいですね。

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

つい三井：なるほど。それでは次に活動内容を教えて下さい。

土方：主に案を出し合い、まとめたものを企業や学校に提案しています。有明の新キャンパスは低層棟・中層棟・高層棟からなっており、昨年までは低層棟のカフェを中心に活動してきました。今年からは以下の４つの柱を中心に範囲をキャンパス全てに広げて活動しています。

１）カフェ（低層棟）
２）自動販売機
３）学食
４）ゴミの削減

カフェについては昨年度先輩方がかなり土台を作ってくれており、既に運営してくれる企業さんが決まっています。

三井：企業！ということは企業を探す段階から学生が学校の運営に関わっているということなのですね？すごいじゃないですか！

土方：ありがとうございます。本当にこれは先輩方の努力の賜物でして、おかげでカフェにつきましては具体的なことを詰めていく作業にシフトしてきています。

三井：カフェは一体どのようなものになる予定なのですか？

土方：ではカフェについて詳しく説明します。カフェは低層棟２階に建設予定で、「食と健康と環境」というコンセプトで行う予定です。さらにカフェというのは側面でして、本質的には“カフェ・バー・レストラン”という形で運営される予定です。

三井：“カフェ・バー・レストラン”！？　　く

土方：そうなんです！昼間学生が利用する時はカフェといま う姿なのですが、夜には本格的なレストランやバーにう 変身するのです。それだけでなく、イベントホールという面も持たせようと考えていまして、たとえばそこ大で料理教室を開催したり、未定ですが音楽設備も充実させたりしようという案もあります。

三井：いや～とても素敵な場所になりそうですね！私、今から行くのが楽しみになってきました！　　練

土方：ありがとうございます。新キャンパスに行かれる生徒の方は是非楽しみにしていて下さい。　　達成しよう

三井：他の３つはどのようなものなのですか？

土方：自動販売機というのは昨年まであった「Yes My Bottle」というプロジェクトが行っていた活動なのですが、今年から新キャンと一緒にやっていくことになりました。内容につきましては今年からの取り組みなのでこれからアイデアを出し合っていく段階ですが、カート缶などを使用し従来の自動販売機よりも環境に配慮したものを企業と提携し、新キャンパスに設置しようと考えています。

土方：学食というのも今年からの取り組みでして、

低層棟完成予想図　　提供：アシード株式会社様

カフェの入る低層棟の地下で学食、というか現在のアーケードのような形になる予定なのですが、そこでエコトレー(＊２)などを使っていけたらなと考えてい　ます。

三井：エコトレーというと、昨年の文化祭で使われたものですね？

土方：はい。表面のフィルムによって洗う必要がななりますのでその分環境に良いものになっています。大げさですが、環境に配慮したデパ地下のようなものを想像して頂ければとおもいます。

土方：最後にゴミの削減ですが、これも今年からの企画学校からの要望でやっていこうということになりました。

三井：大学からの要望ですか？

土方：はい。現在、人数を３分割してそれぞれの企画をっているのですが、ゴミの削減に関してはそれらが個々に削減することで全体としてこの目標をと考えています。

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

三井：うわ～なんだか凄そうですね！他の学部の方で有明に移る方は、いつも利用している場所が実は同年代の生徒によって作られたのだということを是非実感してください。それではこのプロジェクトの魅力と環境学部の１年生に向けてひとことお願いします。

土方：魅力は、現実性があるということですね。このプロジェクトに入った方は企業を探したりだとか、すぐに本質に触れられるというのが魅力だと思います。１年生には是非興味を持って参加して欲しいです。というのも、自分たちが行く所であるというだけでなく、キャンパスが完成した後も大切なことだからです。来年度にはキャンパスは完成します。しかしそこでこのプロジェクトが終わるわけではなく、その後はキャンパスの運営や維持などに活動をシフトし永続的に有明キャンパスに携わっていくからです。なので、１年生には興味を持って欲しいですし、カフェなどを積極的に使って欲しいです。もしこのプロジェクトに興味がありましたらメンバーに気軽に声をかけて下さい。

三井：ありがとうございました。長くなってしまいましたが最後に、有明キャンパスにかける夢を熱くどうぞ

土方：自分は今年入ったばかりで、皆さんと同じスタートラインです。しかし、４年生が苦労して築いてくれた土台、その努力を無駄にしないよう全員で有明キャンパスを作っていきたいと思います。そしていつか、「あそこの綺麗なキャンパスで学びたい！」と、キャンパス目当てで武蔵野大学に入学してくれるようなキャンパスにしたいです。

三井：ありがとうございました。

有明キャンパス完成予想図　提供：アシード株式会社様

Eternal Smile

三井：次に紹介するのは今年できたばかりの新進気【国際関連】さんです！

鈴木：どうも。

三井：下記のようなプロジェクトですが、メンバーが一人なのは今年発足したからなんですよね？

鈴木：はいそうです。ですので、これを見ている方には是非入って欲しいと思います。やる気のある人募集しています！

リーダー	鈴木智大（環境学部２年） G メール：s1035028@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	１人
活動目標	難民などの国際問題の解決に貢献する
活動内容	NPO 探し、活動

三井：このプロジェクトはどういった理由で発足したのですか？

鈴木：はい。他の多くのプロジェクトでは環境のことを扱っており、あまり難民などの問題は注目されていないですよね？誰もが触れない問題というのは忘れ去られてしまいます。自分がこの問題を調べ、紹介することで多くの人に環境以外の問題にも注目して欲しいと思ったからです。

Eternal Smile　リーダーの鈴木智大さん

三井：なるほど、確かにほとんどの環境プロジェクトや最近注目されている問題では環境関係、特に温暖化などがピックアップされていますよね。

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

鈴木：そうなんですよね。活動も活動内容としては、NPO法人の特性を調べ、自分にあった活動をしているところを探し、一緒に活動していこうと考えています。なので、当面の活動は協力できるようなNPOを探すことですね。

三井：具体的にはどのようなNPOを探すつもりですか

鈴木：そうですね。多くの問題を幅広くとらえ、学生の意見を対等に聞いてきくれるようなNPOを探していこうと思います。

三井：このプロジェクトの魅力を教えて下さい。

鈴木：魅力はそうですね・・・先にも言いましたが、一つの問題に限らず取り組んでいきたいと考えていますので、多岐に渡る分野に取り組めるというのが一つの魅力だと思います。その中で、様々な考え方や価値観を知ることが出来ます。また、言葉も肌の色も異なる人たちが互いに助けあえる、言葉が通じなくとも心が通じあう、自分の力で笑ってくれるというのが最大の魅力だと思います。

三井：なるほど！最後に１年生に向けて一言お願いします。

鈴木：気力のある人、元気な人を特に募集しています。困っている人たちを助けたいという方は是非一緒に活動しましょう！助けるのは誰かではなく、**私たちだ！**

三井：はい！ありがとうございました。

ERW21

←ERW21
リーダーの
小野弘祐さん

三井：こちらは【Eco Report Way21】さんです。よろしくお願いします。

小野：よろしくお願いします。

リーダー	小野弘祐（環境学部３年） G メール s0935046@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	１７人（３年 - ４人、２年 - ９人、）
活動目的	・企業 CSR を学生の目線で評価する ・知名度の向上
活動内容	環境 CSR 報告書を読み企業を評価する

三井：活動内容は“企業を評価する”ということです

小野：はい。私たちは企業の発行している環境 CSR 報告書というものを独自の評価基準で評価しています。この報告書には職場の健康管理や安全性という職場環境に関することや、自然環境に対する取り組みが書かれています。これを学生目線で評価し、企業と意見交換することで多くの企業の実情を知ることができます。これを就職活動に役立てたり、企業と意見交換することで学生の力を育み将来へ活かしていこうと考えています。

三井：実際に企業と話すことができるのはとても貴重な経験ですね。絶対将来に役立つことだと思います。因みに今まで行った企業にはどのような所がありますか？

小野：何社もありますが「清水建設」さんなど大企業に行ったこともあります。

三井：おー！それはすごいですね！とても貴重な経験ができそうです。では次に過去の活動と今年度の活動目標を教えて下さい。

話し合いに励む ERW21 のメンバーさん

小野：過去の活動としては各社の訪問や評価、先に言いました“独自の評価基準”を作ったことです。「リクルートのための２１の指標」というもので、２１の様々

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

な評価を行うものです。

小野：活動目標はこのプロジェクトの知名度の向上です。このような活動をしている学校はあまりありません。この活動をもっと有名にすることで、企業間で学生の評価を注目されるようにしたいです。さらに就活での活用も考え知名度を向上していきたいです。そのためにも今年度は評価する騎乗数を増やし、絵コプロダクツで発表しようと考えています。

三井：なるほど。プロジェクトの魅力はなんですか？

小野：やはり一番の魅力は企業と対等な立場で意見交換できるということですね。企業と関われる機会はいくつかありますが、“対等な立場”でというのはなかなかありません。また、先ほど言いましたが企業に訪問しますので、いくつもの企業の雰囲気を肌で感じられるというのが魅力です。企業の説明会などでは感じることの出来ない企業の雰囲気を知ることで就活に活かすことができます。

三井：カタログ情報以上のことを知る機会というのはなかなかありませんからね。逆に大変なことはなんですか？

小野：報告書というのは実はかなりの厚さがあります。字も細かいですし、適切な評価をするためにも端から端まで読む必要があります。これを読み切る忍耐力が必要だと思います。また、実際に企業に訪問するのですが、企業の独特の空気がありますので、最初のうちは大変だと思います。

三井：最後に１年生に向けてひとことお願いします。

小野：環境というのは漠然とした分野です。なので何か形に残るようなことをするといいと思います。それと、授業以外で何か活動をしたほうがいいと思います。授業だけでは関わりも小さくなってしまいます。外に出て、様々な経験をたくさん経験してください。その一つとして ERW21 を活用して頂けるとありがたいです。

三井：ERW21 さんでした！ありがとうございます。

EMS

三井：今年度発足したプロジェクトは多いのですが、その中で唯一１年生がリーダーを務めるプロジェクト【ＥＭＳ】さんです！

増田：どうも。よろしくお願いします。ちなみに EMS とは“Ecological Management System”の略称です。まあ簡単に言うと環境に配慮した経営をしましょうというものです。

リーダー	増田和穂（環境学部１年） 学籍番号：s1135047@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	１人（１年）
活動目的	有明キャンパスで ISO14001 を取得
活動内容	・知識習得　・取得校への訪問

三井：このプロジェクトの目標は ISO14001(＊３)の取得とい

うことですが、なぜやってみようと思ったのですか。

増田：はい。武蔵野大学には環境学部あり、環境プロジェクトという授業もあり、とても環境に配慮した学校であると思います。しかしせっかくこのような面があるにも関わらず社会的に認められた資格などが全くありません。なので世界的にも認められた ISO を取得することで環境への取り組みをもっと外へ広めていこうと考えたからです。またこれを取得することで CSR を果たせますし、活動や授業にも活かせるのではと思います。

←EMS
リーダーの
増田和穂さん

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

三井：確かに社会的に認知されなければもったいないですからね。ではそこまでの活動内容を教えてくださ

増田：今のところ、知識習得・習得校へ行く・交渉・他の学部への働きかけの４つを主な活動内容としてやっていこうと考えています。まず ISO を取得するための知識習得を目指します。ISO やローカル EMS に関することは勿論、メンバー全員で eco 検定に合格しようと考えています。また、法政大学などすでに取得済みの大学へ行き見学・インタビューさせて頂こうと思います。

三井：ISO は大学だけでなく企業も取得していますが、大学の方に見学に行くメリットはなんですか？

増田：企業は利益を得るための一つの手段として取得しています。しかし、学校ではそれだけでない負の面もあると思います。そこを知るためにはやはり企業ではなく、大学へ行き、お話を伺いたいと思います。

三井：他学部への働きかけというのは？

増田：取得に関する何かをやってもらおうというわけではありませんが、有明へ行くのは環境学部だけではないので、他学部の方に興味関心をもってもらいたいと思います。

三井：このプロジェクトの魅力はなんですか？

増田：やはり確かな実績が残るということですね。目標も大きいので達成感もひとしおですし、社会的貢献にもなります。

三井：最後にどんな方にメンバーになってもらいたいですか？

増田：出来れば先輩に入ってもらいたいです。今は 10 人前後を目安としていますが、数は少なくともやる気のある人に協力してもらいたいです。

環境フェスタ 2011

三井：続いては【環境フェスタ 2011】さんです。よろしくお願いします。

斉藤：よろしく！

三井：早速ですが、活動目標と内容を教えて下さい。

斉藤：はい。このプロジェクトは今年出来たばかりで、学生同士や地域・子供たちとの交流を催すことを目標にしています。今のところ今年度中に３回程催しをやろうと考えていまして、記念すべき第一回を 7 月 16 日に予定しています。活動内容としては、催しの企画・案の出し合い・危機管理などの準備と実行、そして反省という流れでやっていこうと思います。

リーダー	斉藤俊介（環境学部３年） G メール：s0935050@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	８人（３年―５人、２年３人）
活動目標	交流できる催しの企画・運営
活動内容	企画の　準備→実行→反省

三井：しっかりと流れが決まっているわけですね。今年度出来たプロジェクトということですが、何故このプロジェクトを立ち上げたのですか？

斉藤：そうですね、自分の根底にあるのは人が集まって**皆でワイワイ楽しく**何かをやるということなんですね。それに、有明キャンパスに移ってしまうと学年・学部間での交流が出来なくなってしまいますし、大学周辺の地域の方々と交流すれば「あ、ここの大学はこんな感じだからその周辺は安心できるわ」と親御さんに思ってもらえ、安心できる地域環境に貢献できるのではないかと考えたからです。また、自分はいくつかの NPO さんの活動に参加させてもらっているのですが、そこで楽しませてくれた方々を今度は自分で楽しませたい・招待したい、そう思ったというのもありますね。

三井：いや～優しい先輩ですね！うらやましいです。今後の予定は何かありますか？

斉藤：いやいや！予定としては先ほど言った 7 月 16 日に予定している企画ですね。ここでは地域の小中学生との交流を行う予定です。後期には土曜日に学生の交流を、またエコプロダクツ終了後には他の大学と関わったりして活動を大きくしていきたいです。

三井：第一回のほうでは具体的にどのような事をするつもりですか？

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

環境フェスタ 2011 のメンバーさん

前列右から２番目がリーダーの斉藤さん

斉藤：具体的には環境教育を小中学生にしようかと思っています。今の所キャンドルナイトさんに協力してもらいまして、他には理科実験をしたり、他の環プロさんにも協力してもらおうかと思っています。

三井：環境教育ですか。どんなことを伝えたいですか

斉藤：伝える、というよりは単純に“楽しい”と感じてくれるのが一番ですね。その中でエコや科学について伝えられたらと思います。同じではありませんが、このあたりは信州大学の「ゆうゆうフェスタ」というものを参考にしています。

三井：色々とありそうですが、このプロジェクトの魅力はなんですか？

斉藤：やはり**楽しさの追及！**ですね。老若男女問わず、楽しみたいです。

三井：最後に一年生に向けてひとことお願いします。

斉藤：「まずやってみる」「迷ったらやってみる」というのが大切だと思います。大学生なんだから失敗しても大丈夫！実際に行動し、反省していくのが大切です。あと、企画の準備自体にはあまり人数はいりませんが、当日には多くの人数が必要ですし、人数がいればその分多く活動できます。わいわいさわげる人、もやもやしている人、迷っている人、歓迎します。来る者は拒みませんので、当日だけでも協力してくれる方は是非一度連絡下さい。

三井：ありがとうございました。

環境教育

環境教育のメンバー　左から２番目がリーダーの堀さん

三井：今年発足した【環境教育】さんです。よろしくおねがいします。

堀：お願いします。

三井：２年生だけで構成されているのですよね？

堀：そうですね。ちょうど男女３人ずつ６人のメンバーを中心に活動しています。

リーダー	堀耕介（環境学部２年） G メール：s1035052@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	６人（２年）
活動目標	将来環境に関心をもつ人材を育成する
活動内容	地域の子供たちに環境教育

三井：環境教育ということですが、対象と何を伝えるのか教えて下さい。

堀：対象は幼稚園年長～小学校低学年を予定しています。学校などは決めていません。内容としてはネイチャーゲームなど屋外、自然の中で子供たちに生き物のことなど**自然の大切さ**を伝えていければと思います。小さい時の経験で将来環境に携わるような職についてくれればと思います。

三井：分かりました。では活動内容をお願いします。

堀：今予定しているのは 10、11 月の第２・４土曜日の計４回にイベントを開き、先に言った地域の子供たちを対処に環境教育をしたいと考えています。その結果を 12 月のエコプロダクツ発表できればと思います。

三井：時期が秋なのはなにか理由があるのですか？

堀：はい。春や秋というのは一番環境に変化がある時期ですし、夏や冬に比べ気候が安定していますので、子供たちに負担をかけないかと考えたからです。あとは前期のうちにリーダー育成の資格を取得しようと予定

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

していまして、それもあり秋に予定しています。

三井：なるほど。子供たちのことを考えているのですね。次にプロジェクトの魅力を教えて下さい。

堀：小さい子と楽しく環境問題を考えるということ自体が魅力だと思います。あとは外での活動が主になりますので、外に出たい人には大きな魅力になると思います。

三井：最後に１年生に一言お願いします。

堀：優しい先輩方ばかりです！優しく出迎えますよ～。また今後も長くやっていきたいので、是非引き継いで欲しいですね。最後に、**小さい子が好きな子集まれー！**

三井：ありがとうございました。

ビオトープ

三井：次は【ビオトープ】さんです！よろしくお願いします。

山口：よろしくお願いします。

三井：ビオトープ(＊４)さんは新キャンパスさんに続くメンバーを擁しているのですよね？

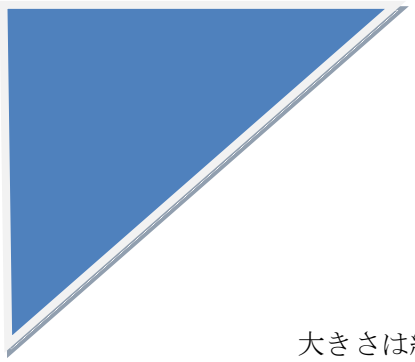
山口：そうなりますかね？多くのメンバーに協力してもらっています。

三井：では、そんな魅了的なプロジェクトに色々インタビューしていこうと思います！まず活動目標と活動内容を教えてください。

リーダー	山口真一（環境学部３年） Ｇメール：s0935065@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	２１人（３年－５人、２年－７人）
活動目標	有明のビオトープを一人で管理する
活動内容	・「ビオトープ管理士」の資格取得 ・新キャンパス周辺の環境調査　　など

山口：そうですね。活動目標は「一人でビオトープを管理する」ということですね。有明キャンパスにできるビオトープをこのプロジェクトで管理していこうと考えています。そのため今年度はメンバーで“ビオトープ管理士２級”の資格取得を目標に活動していきます。

三井：その資格はどのようなものなのですか？また、勉強の仕方を教えて下さい。



←このような形のビオトープが出来る予定。

場所は高層棟の裏、

大きさは約７ｍ×７ｍ　50 ㎡

山口：この資格には２種類あって、私たちは「計画」というほうを取得しようと考えているのですが、この資格がなくともビオトープを管理することは出来ます。出来ますが、管理していくにあたって知識が必要になってきますのでその知識の定着のため、もう一つは説得力を出すためですね。

三井：なるほど！**「このビオトープを管理している人はこんな資格を所持しているほど知識があるんだぞ」**ということですね？

山口：そうです！そうすることでアピールできるので必要な資格だと思います。ただ、合格率３０％というかなり難しい資格なので全員の取得は厳しいですが、出来るだけ多くのメンバーに取得してもらいたいです。勉強に関しては武蔵野大学の院生にこの資格を持っている方がいらっしゃいますので、その方に講義して頂いています。

三井：他にも活動なさっているのですよね？

山口：はい。昨年なんかは田無小学校へ行き環境教育を行っていましたが、今年度は

・水質調査
・保谷第２小学校のビオトープを管理
・新キャンパス周辺の環境調査

なんかを考えています。水質調査は学校前の噴水や水道水、千川上水なんかを行いまして、加えて今年は井之頭公園を予定しています。また、ただ水質調査するだけではなく、浄化の方法をいくつか試してその結果を有明のビオトープに活かしていきたいです。小学校の件ですが、なんでも荒れ果てたビオトープがあるという話なので、実際にそれを管理して自分たちの経験にしたいと思います。

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

三井：いや～活動が一貫して、目標への積み立てがはっきりしているのは凄いですね。そのようなことが出来ていないプロジェクトは企業にもありますし、勉強になります。では沢山あると思いますがこのプロジェクトの魅力をお願いします。今回はメンバーの方にもお越しいただいたので是非メンバーの方もお願いします。

ビオトープのメンバーさん　右端の男性がリーダーの山口さん

山口：そうですね…メンバーの仲がいいというのが一つの魅力ですね。何かある？

田中：あとは外に出て活動するというのも魅力だな。室内に籠りたくない人・行動力がある人にはオススメ。

石井：環境っていうのは広範囲にわたる分野だから全てを伝えるのは大変だし、とっかかりを探すのも難しい。けど、このプロジェクトならビオトープという一貫性があるから「自分はこれをしたいんだ！」というものが分かりやすいと思うよ。だから何かを始めたい人にも入って欲しいです。

三井：ありがとうございます。では最後に、有明のビオトープをどのようなものにしたいですか？

山口：化学繊維をできるだけ使わないものにしたいですね。普通のビオトープでは底にブルーシートをひくのですが、有明ではそれを天然由来の素材にするつもりです。

田中：あとは、さえずり？鳥のさえずりが聞こえるような場所にしたいですね。

山口：そんな憩いの場所にしたいですね。

三井：今から楽しみです！頑張って下さい。ありがとうございました。

放射能状況を市民化する会

←リーダーの後藤雅也さんと
メンバー

三井：なんとも時事ネタなプロジェクト名、【放射能状況を市民化する会】さんです。

後藤；よろしく。

リーダー	後藤雅也（環境学部２年） G メール：s1035047@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	２人（２年）
活動目標	放射能を市民化する
活動内容	放射能の定点観測

三井：市民化するとはどういうことですか？

後藤：自分もこのプロジェクトを立ち上げるにあたって“市民化”について調べたのですが、簡単にいうと「自分たちのものにする」ということですね。放射能に関する情報というのは全て国からもらっているというのが現状です。そのような受け身で放射能、あるいは原発を捉えるのではなく、自分たちから知っていこうということです。

三井：なるほど。活動内容を教えてください。

後藤：一番は学内での定点観測ですね。今のところ予定ですが。これは放射能測定器をプロジェクトで購入してやっていこうと考えています。他にも福島や茨城の放射能情報を調べてみようかと予定していましたが、難しいと思います。なので、N ネットなどにそちらの情報があうようなのでそれを使っていこうと思います。まあその３か所、福島・茨城・東京（本校）で比較していこうと思います。

三井：測定器、というとかなり高価そうですが購入の目途は立っているのですか？

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

後藤：値段はピンキリみたいで、今購入を予定しているもので５万円程度ですね。お金の目途も立っていますので、購入はおそらく可能です。

三井：それでも高価ですね～。魅力はなんですか？

後藤：放射能を理解できるということですかね。今ニュースなどで様々な情報が飛び交っていますが、理解できれば無駄に怯える必要もありません。ニュースも分かるようになりますし、なにより**一番早く逃げることが出来ます(笑)**就活にも有利ですよ！

三井：確かに(笑)知っていれば自分の安全を確保できますよね。最後に１年生に向けて一言どうぞ！

後藤：**測定したい人は集まれー！**

三井：ありがとうございまーす！

Candle Night

Candle Night のメンバー

紙面を持っている女性がリーダーの高橋さん

三井：続きまして【Candle Night】さんです。よろしくお願いします。

高橋：あ、リーダーの高橋伶奈です。お願いします。

三井：そして今回はメンバーであり、コーディネートプロジェクトのリーダーでもあります猿谷さんにも同席して頂いています。お願いします。

猿谷：お願いします。コーディネートの記事は最後に載っていますので、そちらも見て下さいね。

三井：はい。そちらもよろしくお願いします。まず、データとしては下表ということですね。

リーダー	高橋怜奈（環境学部３年） Ｇメール：s0935054@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	１３人（4年－1人、3年－7人、2年－3人）
活動目標	キャンドルナイトの成功、来場者の増加
活動内容	キャンドルナイトの企画運営

高橋：そうですね。特に今年度はリピーターや来場者数・滞在時間などを増加させることを目標に活動しています。目標は今年の夏至で学内１００人、冬至でそこに加え外部からの２０人を加えた１２０人です。

三井：ちなみに今までの来場者数はどのくらいですか？

高橋：昨年の冬至では５０人、夏至では９０人の方に来て頂きました。リピーターは毎回行っているアンケートで調査します。

三井：おお！かなりの人数を動員しているのですね。今年の活動内容は何ですか？

高橋：はい。今年は滞在時間の延長を目標にしていますので、それを達成できるようにプログラムを改善していこうと考えています。今までは「ああ綺麗だな～」で外に出て行かれた方が多かったので。

猿谷：そうなんですよね。家族・友人・将来、なんでも構わないのですが、私たちとしてはキャンドルの明かりを見ながら“何かを考えて欲しい”のです。キャンドルナイトの空間は力のある空間ですし、風が無くとも揺れるキャンドルには絶対癒されるはずです。そんな空間をより長く体験して欲しいですね。

三井：確かにキャンドルの明かりには独特の癒しがありますよね。今まで何回ほどキャンドルナイトは行われてきたのですか？

高橋：次回、今年の夏至で９回目になりますね。ですがそれは学内での活動回数でして、築地本願寺のイベントに参加させて頂いたり、町おこしとし参加したりと実は色んな所で活動しています。

三井：かなり経験豊富なプロジェクトなんですね。キャンドルナイトというのはこのプロジェクトが考えた企画なのですか？

高橋：いえ、そもそもこのキャンドルナイトというのは日本発祥のイベントでして、“１００万人のキャンドルナイト”と言います。もともとは節電活動の一つだったようです。毎年夏至と冬至の年２回行っていまして、

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

１日３時間消灯し、その時間を皆で共有しようというものです。そこに乗っかる形でやっているのですが、そことは全く関わりはなく、企画から開催まで全て私たちが独自にやっています。

三井：なるほど。ではキャンドルナイトについてプログラムなど詳しく教えて下さい。

Candle Night の様子メインモチーフ「虹」　2009/6/19

高橋：はい。先ほど言った通り年２回夏至と冬至に行っていまして、社会の喧騒を忘れ自分を見つめなおすきっかけとしてもらえればと思っています。場所はグリーンホール。**毎回５００個**前後のキャンドルを点灯しています。最初のうちは明かりのもとでキャンドルの様子を楽しんで頂き、後に消灯しています。勿論それだけでなく、サークルさんなどのピアノ演奏、朗読・外部の方のライブ・私たちのパワーポイントなどいくつかの形で演出しています。キャンドルにはアロマのものもあり、毎回異なるテーマのもと色んな物をモチーフにしたキャンドルがあなたを出迎えます。

←のモチーフ

「雪だるま」2010/12/16

今年は震災の影響で夏至では無くなりましたが、６月３日（金）に行いました！たくさんのご来場ありがとうございました。次回は１２月を予定していますので、皆さんお誘いあわせの上起こし下さい。

三井：夏至での催しについては別途記事を用意しましたのでそちらをご覧下さい。いや～楽しかったです！独特な空間を共有できるのは貴重な経験ですね。では最後にプロジェクトの魅力と１年生へ向けて一言をお願いします。

猿谷：すでに何回も行ってきたイベントですが、自分たちにとっては毎回がゼロからのスタートなんですね。とても大変ですが、だからこそやりがいや達成感を感じることが出来ます。大変だけど楽しいですね(笑)

高橋：そうですね。企画・運営は経験になりますし、自分の考えていることを反映できるというのも魅力の一つです。自分のアイデアを企画反映させる力の欲しい人にはオススメです。あとは単純にキャンドルの好きな方には楽しいと思います。

猿谷：スタッフの目線だとキャンドルの楽しさをより一層感じることが出来ると思いますよ。

三井：かなりの動員数ですし、達成感はひとしおでしょうね。はい、ありがとうございました。

Ecological Times Project

リーダー	三井翔太（環境学部２年） G メール：s1035041@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	６人（２年、日文１人）
活動目標	・武蔵野大学生の環境に対する意識の向上 ・環境プロジェクトの広報
活動内容	新聞の発行

三井：次にこの新聞を作成している【Ecological Times Project】の紹介です。今回はメンバーの一人、諌山君にインタビューしてもらいました。

諌山：はい。それでは始めていきます。ではまず、このプロジェクトの名前の由来を教えてください。

三井：はい。世間でよく使われている「eco」というのは「ecological」という言葉の略語なので、そこから取りました。そして「Times」は「新聞」という意味で、このプロジェクトは新聞を媒体とした情報広報をしていますので、そこから取りまして、二つ合わせて Ecological times project にし

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

ました。

諫山：なるほど、ニューヨークタイムズみたいで親しみ易いですね。ところで気になったのですが、データによると他学部の生徒が入っているみたいですが、何故ですか？

三井：いい質問ですね。私たちの新聞は外部の人々に見てもらうことを視野に入れて活動しています。そこで、第三者の方に見てもらうことにより、“環境の知識の無い方にも分かるように書かれているか”“関心を持たせるような文面になっているか”をチェックしてもらっているのです。

諫山：さすが、読者のことを深く考えているんですね。それは最終目標にも関係してくるんですか？

三井：そうですね。最終的には学内だけでなく、学外の方々にも読んで頂けたら、と考えています。

諫山：ほお～分かりました。では次に今年の目標を教えてください。

三井：今年の目標は新聞の定期発行。また、その定期発行の結果をエコプロダクツに出展すること。そして新聞の定着やホームページなど広報の充実を目指しています。

諫山：定期発行と銘打っていますけど、どのくらいの頻度で発行する予定ですか？

三井：現時点では月一部の発行を見ていますね。長期休暇を利用して記事を書き溜めることにより、後期では月二部の発行を計画しています。既に創刊準備号を発行し、ホームページにすでにアップされています。

諫山：その創刊準備号はどのような内容なんですか？

三井：創刊準備号は一般的に注目されている環境問題について浅く触れた内容となっていまして、これからの Ecological Times Project の活動方針を明確にした記事となっています。

諫山：私は酸性雨の話を書きましたね。拙い文章でお恥ずかしいです。それでは、活動内容も教えてください。

三井：主軸としては新聞の作成を置いています。記事は環境について、環プロについて、知識人へのインタビューの３本柱で書いています。インタビューでは学外の方や先生方にインタビューをして、その発信源にしようと計画しています。それとこれはまだ構想段階なのですが、私たちの方から何かイベントが出来ればと考えています。イベントについてはまだ企画段階ですので、構想がまとまり次第徐々に行っていきたいです。

諫山：それは大いに魅力的ですね。三井さんはこのプロジェクトにどのような魅力を感じていますか？

←著者の三井
もう二度と写真は撮りません

三井：そうですね。他のプロジェクトの方々も言われていますが、今年発足したプロジェクトなので、まず、自由度が広いことが挙げられますね。また、自由度が広いという中でも、この新聞は環境について書いていく新聞です。これは私の持論なのですが、**「環境というものが存在しない場所は無い」**と考えています。なので自然環境だけでなく、様々な環境について取り扱っていけるので、幅広いことが書けます。そしてそれを自分たちで調べることにより、幅広い知識、考え方を身に着けることができることが大きな魅力ですね。あとは個々での作業になるので大変ですが、自分で自由に時間配分して活動できるというのも魅力ですね。他にはインタビューを通じて NPO の方々や外部の企業様とパイプを築くことができることも大きいですね。

諫山：それは将来的にも大きな財産になりそうですね。では最後に一年生に向けて一言お願いします。

三井：私たちのプロジェクトは他のプロジェクトと違って大きなイベントがあるわけでもなく、確かに“地味”です。他のプロジェクトは大きなことを

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

一つ成し遂げることを目標としているところが多いですが、私たちのプロジェクトは、定期発行を目指し、日々活動しています。新聞を書くために文献を調べたり、記事を毎日書いたりと忙しく大変な日々かもしれません。内容の面でも PC ですぐに調べられる程度では勿論ありませんので、魅力よりも欠点のほうが多いと思います。しかし、逆を言えば日々目標を持って行動し、充実した時間を過ごしているとも言えます。私たちの日々の行動は将来、社会に出るときに必要なことばかりです。もし、この大学生活を漫然に過ごしているのであれば、私たちと刺激的な大学生活に変えてみてはどうでしょうか。

諌山：私もこのプロジェクトが本格的に始まってから暇な日を過ごしたことが無いですよ。まだ人数も少ないので一年生にも活躍してもらいたいですね。三井さん。本日はありがとうございました。

環プロコーディネート

三井：ついに最後になりました。我らが環境プロジェクと、全１９を取りまとめて下さっている【環プロコーディネート】さんです。よろしくお願いします。

猿谷：いえいえそんな大したものではないですよ(笑)よろしくお願いします。

リーダー	猿谷あかね（環境学部３年） G メール：s0935030@stu.musashino-u.ac.jp
メンバー	１０人（4 年-2 人,3 年-4 人,1 年-4 人）
活動目標	・環プロの円滑な運営 ・今年の集大成をエコプロダクツで発表する
活動内容	集会の企画・運営、リーダー会の議事

三井：このプロジェクトさんに環プロの集会を運営して頂いたり、リーダー会の議事など環プロ全体円滑な運営をして頂いたり、様々な形でお世話になっております。

猿谷：ありがとうございます。とは言いましてもこのプロジェクトは今年で終了させる予定です。

三井：え！？そうなんですか？

猿谷：はい。もともとこのプロジェクトは昨年できたばかりでして、今まで数人の先輩がまとめていた環プロをその人たちの負担にならないように決まった人たちがまとめていくべきかと思い作られたんです。ですが、同じ生徒同士ということもありますので、来年度からは自主的に自分たちでやっていこうということになりました。ですので、今年度の目標は「コーディネートが無くとも大丈夫なようにしていく」ということです。

三井：なるほど。自主性を重視していくことになるんですね、分かりました。ではそれも踏まえまして今年の活動内容をお願いします。

猿谷：はい。RP（リアクション・ペーパー）の回収・反映、発表会の企画運営など昨年度の活動を改善しつつ環境プロジェクト全体に快適に活動して頂くようにしていこうと思います。

環プロ発表の様子　コーディネートさんが全体の進行を務める

三井：分かりました。では、環プロという授業自体に魅力を教えて下さい。

猿谷：環プロは個々が思い通りに好きに出来るというのが魅力です。大学生ですので上手くできないこともありますので、誰かに助けて頂くことがあると思います。そうすることで、先生や他の生徒との繋がりを強く感じることができると思います。だからこそまとまって、勢いをもって活動できる。それはとても素晴らしいことだと思いますし、実感できるはずです。

三井：いや流石です。では最後に、来年度この授業を履修しようかと考えている環境学部の１年生へ向けて一言お願いします。

猿谷：この授業は色んな力がつきます。自分の意見を相手

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております

に伝える力、プレゼン力、そのような力が絶対つきます。おとなしい人でも人前で話せるようになります。**自分を磨きたいという人は是非履修してみて下さい！**勿論その分大変ですが、病みつきになる大変さです(笑)楽しいですよ？

三井：ありがとうございます!これを参考に、皆さんには是非！環境学部の方には環境プロジェクトの授業をとって頂き、他の学部の方には関心と協力をもってもらいたいです！

用語解説

＊１「新キャンパス」…2012 年度から有明にて開校する武蔵野大学のキャンパス。３つの建物から成り、文学部英語・英米科、グローバル・コミュニケーション科、人間関係学部人間関係科、政治経済学部、環境学部環境学専攻のキャンパスとなる。なお該当学科は、2011 年度入学生以降１年次のみ現キャンパスで修学し、２年次から有明キャンパスとなる。

＊２　「エコトレー」…通常の食品トレーの表面を透明なフィルムで覆ったもの。フィルムは簡単に剥がすことができ、食事後に剥がすことで少ない水・洗剤で洗浄ができるため環境への負荷を軽減できる。昨年度アーケードで試験運用された後文化祭で実際に使用された。

＊３「ISO14001」…国際的な規格である ISO のうち環境に基づいた経営などに認可される規格の一つ。つまりこれがあると“環境に配慮している”と世界的に認めてもらえる。勿論 ISO は環境だけでなく様々なものに存在し、数字が異なる。

＊４「ビオトープ」…本来は生物が互いにつながりをもちあって生息している空間を指す。が、現在日本では主に人口的につくられた池などの水場を指す。

編集後記

ということで、今回は各環境プロジェクトの紹介を取り上げました！如何だったでしょうか？他学部の方・一般の方々にとっては新鮮な情報ばかりだったのではないでしょうか？今回インタビューさせて頂いた以外にも、野菜を育てているプロジェクト、旅行をテーマに、エコツーリズムに関する活動をしているプロジェクトなど全１８のプロジェクトが“環境”をきっかけに様々な活動をしており、その内容は多岐に渡っています。

私たちの活動は私たちのみで出来るものでは到底ありません。NPO や企業さんに協力して頂いて活動しているプロジェクトも多く、イベントごとを主な活動としているプロジェクトが大半を占めます。その活動には環境学部以外方々の協力なしには不可能です。この新聞をご覧になった方々には環境プロジェクトに興味をもって頂き、協力して頂ければ幸いです。協力と言っても一緒に活動するということもそうですが、活動に興味を持つことも、環境自体に関心を持つことも協力の一つだと思います。一人一人、どんな形でもいいので協力をよろしくお願いします。所詮は学生の活動ですが、今出来ることを精一杯やっていきます。

なお、この新聞は大学内にも掲示されていますがそれらは全てエコの民さん（サークルの一つ）が学内で回収された裏紙を使用させてもらっています。我々は正論を言うだけでなく、実際に実行していくことを心掛けています。

当プロジェクトは環境に関するご質問、意見、取り上げて欲しい内容を随時募集しています。何かありましたら遠慮なく代表の三井までご連絡下さい。直接でも構いませんし、以下のアドレスまで連絡頂ければ可能な範囲内で対応します。

以下記者（Ｐ．Ｎ）
インタビュー・本文：三井翔太
インタビュー：諌山未来雄
　　添削：笹本早紀
協　力:各環境プロジェクト様
　　エコの民様

Ecological　Times
2011/01/25
代表：三井翔太（環境学専攻２年）
Gmail：s1035041@stu.musashino-u.ac.jp
武蔵野大学（東京都西東京市新町 1-1-20 ）
制作：Ecological　Times　Project
URL:http://ecotimproject321.web.fc2.com/

本誌はエコの民様提供の裏紙を使用しております